

西順司さんを偲ぶ会



年末の12月26日（木）文京区民センターにおいて、昨年10月22日に亡くなられた西順司患者会長の偲ぶ会が行われました。75名の参加でしたが、↑上の写真は会の冒頭に撮影されたので、遅れて参加された方は映っていないかもしれません、ごめんなさい。

前列中央が偲ぶ会実行委員長の鶴見弁護士・右隣の遺影を持った娘さんの久世さん・その隣が奥様の緑さんです。

黙とうを捧げました

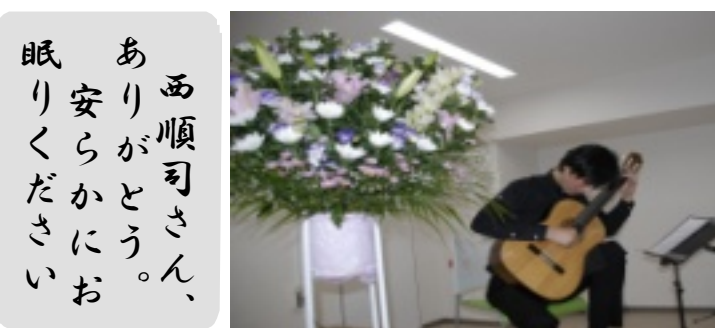
会の初めに、西会長はじめこれまでに患者会活動に貢献されたみなさんに黙とうを捧げました。実行委員長



の鶴見弁護士（下写真）のお話しをはじめに、参加者のみなさんからは西会長を偲ぶ思い出話が次々と語られました。労働運動をされていた、若き日の西さんの思い出や、ぜん息を発病したことで会社を解雇されたことに果敢に立ち向かっておられたお話は、私たち患者には身の引き締まる思いでした。

不屈の精神を忘れない

西会長の患者会を守り育て、会員を拡大して救済を上げたという思いは、病気の身を推しても活動を続けられた原動力



西順司さん、ありがたう。安らかに眠りください

力でした。

美しい旋律に思いを乗せて

会の中盤で「クラシックギターリスト」の柳信一郎さんにギター演奏をしていただきました。美しく哀切の漂う楽曲にしばし、鬼籍に入られた患者の仲間の面影を偲びました。

新年おめでとうございませう今年も一緒に頑張りませう

東京あおぞら連絡会 事務局長

大島文雄

昨年、闘病中でした患者会の西順司会長がなくなりまし。改めてご冥福をお祈りいたします。患者会と原告団の皆さんは、西さんを先頭に10年以上に渡って600人が東京公害裁判を闘い、「国都、自動車メーカー等」との間で画期的な勝利和解を勝ち取りました。本文和解では、判決で

勝ちとれない制度要求が実現しました。

皆さんの運動と勝利は「支援者の誇り」です

- 都民全員を対象にしたぜん息医療費無償制度
- PM2.5環境基準の制定
- 道路対策と沿道緑化等の公害対策が盛り込まれました。

これらは例えば9万人（原告の150倍）の都民が医療費救済を受けられ、PM環境基準や公害対策は患者自身の為でもありますが、これによって数百万都民の健康を守ることに貢献しています。公害被害者が自らの切実

な要求を掲げて闘うことによって、社会にお返しをする「公害運動の神髄」が見られました。見出しあおぞら連絡会は「大きな太鼓」です。昨年2月、全国の患者が「国の医療費助成制度」実現を求めて公害調停を申し立てました。

100人を超える各地の代表が申請人に加わり、東京の皆さんはその先頭に立って奮闘しています。公害調停はこの1〜2年の短期決戦です。そして、相手側の環境省、自動車メーカーを動かすには大変な運動が必要になります。「太鼓は打たれると響きます」。小さく打てば小さく響き、大きく打てば大きく響きます。支援の太鼓を響かせませう。

公害団体旗開き

1月10日（金）四ツ谷のプラザF（主婦会館）にて公害団体合同の旗開き（新年会）が行われました。

建設アスベスト・原発避難者・ミナマタ病と今年判決が出される公害訴訟原告団始め、薬害・環境問題に取り組んでおられる各団体



う。皆さんのご健闘を祈っております。

大気からは公害調停の報告がされました

から、現状報告と展望が報告されました。毎年、環境月間の6月第一週に行われる「全国公害被害者総行動」に集う団体です。

この日の鏡開きの菰樽は先年解決された「泉南アスベスト」のみなさんから提供されました。それぞれの発展を祈念して木槌を打ちおろしました。

